

『神から恵みを受けた』(ルカの福音書 1章 24-40節) 2020.11.29.

<はじめに> 「恵み」はクリスチャンが多用する言葉です(恵まれた、恵みです…)。神は恵みを与える方です。どんなことが恵みだと思いますか。すぐに恵みと感ぜられるものもあれば、後になって恵みだったとわかることもあります。恵みと感じ、受け取るとは、どうすることなのでしょう。

I 戸惑うあいさつ(24-29)

①プロローグ(24-28)

マリアとは、どんな人ですか。わかることを挙げてください。何歳くらいだと思いますか。マリアの許に訪れたのは誰ですか。彼はマリアにどんな言葉をかけましたか。「その6か月目」の「その」とは何を指しているのでしょうか。

②おめでとう?(29)

マリアは御使いの言葉(29)にひどく戸惑い、考え込んでいます。御使いと会ったのも初めてでしょう。「おめでとう、恵まれた方」と言われる理由が分かりません。ヨセフの許嫁になつたからでしょうか。「主がともにおられる」と改めて言われるのも、解せないことです。

③古の聖徒たちも

「主がともにおられる」と神が声掛けられた人は、旧約聖書の中に幾人も見出されます。彼らはみな、個人的に語られ、神から使命を託され、そのために奮い立つようと促されています。この御声は、その人を通して新しい時代を切り開こうとされる時に響く言葉です。

II 恵みを受けた(30-34)

①御使いのメッセージ

御使いは、これからマリアに何が起り、どうするようと言いましたか。御使いは、生まれる子についてどんなことを言っていますか。この言葉を、マリアはどう感じたでしょう。神から恵みを受けた、と感じたでしょうか。

②神からの恵み(28・30)

英語訳には favore(d)とあります。神がその人に目を留めて、神の好意を示し、役割を分かち与えるために選ばれ、そのために必要なものを与えてくださる、そのすべてが恵みです。だから、神の恵みは、私たちにいつも受け入れやすく、甘美で軽いものとは限りません。

③どうして起こるのでしょうか(34)

マリアの疑問は当然です。ヨセフと結ばれてからなら理解できますが、今なら困惑します。マリアが救い主を胎に宿す役割を受け取ると、どんなことが起こると予想できるでしょうか。私たちが救い主を受け入れようとする時、どんな葛藤や悩み、不安がありましたか。

III 恵みを受け取る(35-40)

①神にはできる(35-37)

最初の人を造られた神は、マリアを身ごもらせることもできます。親類エリサベツの懐胎も神の御業です。神には不可能なことはありません。それは、神の御性質と御心に適ったところに、神ご自身の言葉を通して(37 欄外注)表されます。

②ご覧ください(38)

31・36 節で御使いはマリアに何を「見なさい」と言いましたか。それはすぐに見られますか。39-40 節で、マリアがユダの町に急いだのは、何のためでしょうか。マリアが「ご覧ください」(38)と言ったとき、彼女の何を見てもらおうとしているのでしょうか。

③あなたのおことばどおり

神の恵みが示される時、神の御心と私の思いがいつでも一致するとは限りません。むしろ違う方が多いでしょう。その時、私たちはどちらを優先しますか。神が語られることは真実で信頼に足り、そちらを選んでいくのでしょうか。そういう人が主のしもべ、はしためです。

<おわりに> 神から恵みを受けることは、決して軽いことではありません。神が語られる言葉に向き合うとき、私たちは神を知り、自分が何者であるかを知るきっかけになります。それこそ神の恵みです。(H.M.)